

建設業のケース

ABCそれぞれの損益計算書から、どのような業態が類推できるでしょうか。

3業態からそれぞれ選んでください

（単位：千円）

	A	B	C
完成工事高(売上高)	400,000	200,000	50,000
材料費	100,000	30,000	3,000
労務費	30,000	90,000	30,000
外注費	180,000	20,000	0
減価償却費・リース費用	20,000	15,000	1,000
その他	20,000	10,000	3,000
完成工事原価	350,000	165,000	37,000
完成工事利益(粗利益)	50,000	35,000	13,000
一般経費	45,000	30,000	10,000
営業利益	5,000	5,000	3,000

土建業

総合
建設業

造園業

土建業、総合建設業、造園業のビジネスモデルや特徴を考えてみましょう。

業態	ビジネスモデル	特徴（財務面）
<p>土建業</p>		
<p>総合建設業</p>		
<p>造園業</p>		

● 「完成工事高（売上高）」の規模、「完成工事原価」の割合にも注目

業態	ビジネスモデル	特徴（財務面）
<p>土建業</p>	<ul style="list-style-type: none"> ➢ 自社保有のショベルカーやダンプ、ローダーなどの重機を使い、造成工事や道路などを作る事業。 ➢ 重機の運転は、専門性が高く、当然に免許や技術が必要になるため、自社の社員(直営班)で運営することが多い。 	<ul style="list-style-type: none"> ➢ 土木分野に特化した会社になるため、頻繁に使う機材は自社で保有(損益計算書では減価償却費が発生)することが多い。リース料に特徴がでることもある。
<p>総合建設業</p>	<ul style="list-style-type: none"> ➢ いわゆるゼネコンであり、地方の場合には、高層ビル建設などの大型工事よりも、事務所や工場、公共工事を受注する“元請け”に該当。 ➢ 元請け会社は必要な工事種別に応じて専門工事業者(“下請け”に該当、建設業界は重疊的な下請け構造)を手配して、現場代理人が工事を工期通りに完成するために従事。 	<ul style="list-style-type: none"> ➢ 完成工事売上高が比較的大きい ➢ 工事一式を受注するため、材料費や外注費の割合が高くなる ➢ 基本的には工事が完成するまで入金がないため、資金繰りを確認したい
<p>造園業</p>	<ul style="list-style-type: none"> ➢ 近年、「造園業」は、庭を造ることは少なく、公園整備や道路脇の樹木の管理などが主となることが多い。その際は、伐採した草木を運ぶクレーン付きのトラックで各現場に向かうことになる。 	<ul style="list-style-type: none"> ➢ 事業規模が大きくなることが多い。 ➢ 大きな設備投資が必要ではなく(減価償却費が少ない)、人件費(軽作業中心で、高齢従業員やアルバイトが多い)の比率が高い。